

# 平成18年度 第2次小樽市温暖化対策推進実行計画の推進状況

## 1. 実行計画の削減目標

計画期間中の温室効果ガスを、各年度において1990(平成2)年度の排出量から6%以上削減する。  
(計画期間:平成18~22年度)

## 2. 温室効果ガス総排出量の目標達成状況

(トン-CO<sub>2</sub>)

	1990(H2)年度	2006(H18)年度	削減量	削減率(%)
温室効果ガス総排出量	36,051	31,889	4,162	11.5

目標6.0%以上削減に対し、実績11.5%削減で達成。

## 3. 平成17年度との比較 (第1次実行計画結果との比較)

(トン-CO<sub>2</sub>)

	2005(H17)年度	2006(H18)年度	削減量	削減率(%)
温室効果ガス総排出量	34,051	31,889	2,162	6.3

温室効果ガス別・調査項目別の排出量(二酸化炭素換算)

温室効果ガス	調査項目	2005(H17)年度	2006(H18)年度	増減量	増減率(%)	
二酸化炭素	公用車	ガソリン	295	279	17	5.6
		軽油	832	584	248	29.8
	燃料消費	灯油 (冬季排出分)	4,078 (4,078)	3,729 (3,729)	349 (349)	8.6 (8.6)
		A重油 (冬季排出分)	10,365 (8,100)	10,121 (7,800)	243 (300)	2.3 (3.7)
		液化石油ガス(LPG)	31	43	12	38.5
		都市ガス (冬季排出分)	427 (256)	321 (214)	105 (42)	24.7 (16.3)
		電気使用量 (冬季排出分)	17,402 (5,280)	16,195 (4,295)	1,206 (985)	6.9 (18.6)
メタン	下水処理	419	405	13	3.2	
一酸化二窒素	自動車走行	14	14	1	4.8	
	麻酔剤	186	195	9	5.0	
ハイドロフルオロカーボン	カーエアコン	3	3	0	6.8	
温室効果ガス排出量(トン-CO <sub>2</sub> )		34,051	31,889	2,161	6.3	

冬季排出分は、その調査項目におけるロードヒーティング及び暖房による排出量

各年度の排出量を小数点以下四捨五入しているため、増減量が単純にその差とならない場合がある

冬季エネルギー消費による排出量（二酸化炭素換算）

温室効果ガス排出量(トン-CO <sub>2</sub> )		2005(H17)年度	2006(H18)年度	増減量	増減率(%)
		34,051	31,889	2,162	6.3
内訳	冬季排出				
	ロードヒーティング	5,810	4,773	1,037	3.0
	暖房	11,904	11,266	638	1.9
	その他	16,337	15,851	486	1.4

4. 点検結果の評価と今後の取組

(1) 1990（平成2）年度比11.5%減、削減目標6%以上を達成

2006（平成18）年度の温室効果ガスの総排出量は、31,889トンで、1990（平成2）年度より2,162トン減少し、削減率は11.5%となり、削減目標の6.0%以上を大きく上回り、目標を達成している。

(2) 最大の削減要因は、暖冬による影響

2005（平成17）年度の第1次実行計画の結果と比較すると、2,162トン減少し、削減率は6.3%となっている。

温室効果ガス別・調査項目別の排出量をみると、2005（平成17）年度に比べて、液化石油ガス（LPG）12トン増、麻酔剤9トン増、カーエアコン微増となっているが、その他の調査項目は減少している。特に、電気1,206トン減（冬季排出分985トン減）、灯油349トン減（冬季排出分全量）、軽油248トン減、都市ガス105トン減（冬季排出分42トン減）が大きく減少している。この要因としては、2006（平成18）年度の冬が暖冬であり、当市においても3月にまとまった降雪があったものの、降雪量、積雪深ともに平年より少なく、冬季の平均気温も平年に比べ1度高かったために、ロードヒーティングや暖房といった冬季エネルギー消費のよる排出量が大きく減ったためと考えられる。また、2005（平成17）年度の冬が観測史上2番目の積雪深を記録する大雪となり、平均気温も平年に比べ0.5低かったことも、その差を大きくしていると考えられる。

冬季エネルギー消費による排出量をみると、ロードヒーティングや暖房による「冬季排出」項目が、温室効果ガス削減量2,162トンのうち1,675トンと約8割で、削減率6.3%のうち4.9%を占めている。また、冬季排出以外の「その他」の部分については、486トン減少し、削減率6.3%のうち1.4%を占め、温暖化防止に向けた取組の日常業務や施設管理等における職員の環境配慮行動も着実に成果を上げているものと考えられる。

(3) 冬季排出を除いても削減目標を達成、今後も環境配慮行動の徹底を推進

このように2006（平成18）年度の温室効果ガス排出量は、第2次実行計画の削減目標を大きく上回っているが、その削減量の約8割は暖冬によるものと考えられる。しかしながら、暖冬による削減分を除いても、1990（平成2）年度から6.9%減と削減目標を達成しており、職員一人一人による温暖化防止に向けた取組の成果によるものと考えられる。

温室効果ガスの削減量は、冬期間の気象条件により大きな影響を受けるが、今後も各年度において削減目標を達成し続けるために、環境配慮行動の徹底を図っていく必要がある。

（参考 気象データ）

	平年値	2005(H17)年度	2006(H18)年度
平均気温( )	-1.8	-2.3	-0.8
降雪量 (cm)	722	712	524
積雪深 (cm)	118	172	92